様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２２年　５月　５日現在

研究種目：若手研究（B）
研究期間：2007～2010
課題番号：１９７２０１６１
研究課題名（和文）　日本中世の寺社と在地社会―地域社会における寺社の社会経済史的機能について―
研究課題名（英文）　Study on the relations between temples and local societies in medieval Japan-The social and economic functions of temples in local societies-

研究代表者
及川　亘（OIKAWA　WATARU）
研究者番号：７０２８２５３０

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・日本史
キーワード：日本史・中世・寺社・在地社会・薬師寺

１．研究計画の概要

本研究は、南都とその周辺地域を主なフィールドとして、領主としての寺社と地域社会の関係を、単なる支配・被支配関係ではなく双方向に規定しあう相対化されたものと考えて、地域における人的ネットワークや生産関係の中で、寺社がどのように社会的な機能を果たすか検討することによって、寺社の地域社会における社会経済史的役割とその歴史的意義を考察し、中世における在地社会の社会構成の特質を解明することを目的とする。

あわせて、そうした地域に根ざした中世の寺社の機能が、社会の近世化によってどのような消長を遂げるか、すなわち在地社会と寺社が互いに「自立する」過程を、寺社の組織・経営の変化にも注意しながら跡付けることも試みる。

２．研究の進捗状況

（１）主たる対象としている中世の薬師寺について、寺家とそれを取り巻く在地社会との関係性の中から、薬師寺の果たしている地域的機能とその原理を追求するために、寺家経営の総体を、①薬師寺別当領（薬師寺別当を務める興福寺僧によって相伝される所領）からの収入と使途、②薬師寺寺辺領（近隣地域に存在するの所領）に寺家が賦課する段銭・段米による収入と使途、③特定の法会・用途に付属する田地の経営、の三つに分析対象を分類して考察するという方法をとっている。

そのための史料収集として、既刊の薬師寺所蔵史料から中世の財務部門ごとに寺家財政に関連する記事を抽出する作業、および薬師寺以外の南都関係者や公家の既刊の記録などから薬師寺に関係する記事を抽出する作業をほぼ終了し、未刊史料中の中世薬師寺関係の史料の抽出に着手している。

また近世社会の中での寺家組織と寺家経営の変容を検討するために、最近の史料調査による新出史料のうち近世薬師寺の算用帳の撮影・整理と分析を進めている。

（２）一方、関連する史料調査の過程で、中世末～近世初頭の京都上京芝大宮町の算用帳簿類を新たに発見した。これと既知の芝大宮町共有（京都市歴史資料館寄託）「芝大宮町文書」の算用帳や土地帳簿を併せて利用することにより、芝大宮町の財務構造について分析し、併せて芝大宮町の空間復元を行い、その結果を論文として発表した。それにより、今宮神社は氏神として町構成員の単なる精神的紐帯として存在するだけでなく、芝大宮町の自立した財政の成立に一定の役割を果たすなど、世俗的な人的結合や町の自立した運営を支える機能を果たしていることが明らかになった。

３．現在までの達成度

＜区分＞②おおむね順調に進展している。

主な研究対象とした中世南都の薬師寺については、新出史料の史料調査の制約もあって撮影・整理にやや遅れが見られるが、既刊の薬師寺関係史料および南都関係者や公家の日記、関連する南都寺社の史料については、おおむね順調に史料収集が進んでいる。

また、薬師寺とは別に、研究開始段階では未知であった上京芝大宮町関係の史料の新発見により、その分析にも取り組んだことも

あり、南都関係の史料の分析は後回しになってしまったが、芝大宮町については研究目的に沿った一定の成果が得られたので、全体としては順調に進展しているものと考える。

４．今後の研究の推進方策

（１）中世薬師寺について、これまでに収集・整理した史料を活用して、２．に示した方法に則って、個々の所領の在り方から寺家経営の総体を復元することを念頭に置きつつ分析を進め、寺家経営の論理と在地社会の構成論理との関係性を考察する。

（２）近世的な寺家経営の確立と、寺家と在地社会の関係の変質について、その筋道を考察する。史料調査の制約から新出史料については十分な史料収集が行えない可能性もあるが、論理的な見通しは立てられるようにしたい。

（３）本研究の途中で新たに取り組み始めた上京芝大宮町については、さらに町の空間復元と空間構成の論理について考察する。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

<u>及川　亘</u>、東京大学史料編纂所所蔵「芝大宮町文書」の町入用関係史料について、94－116、2009 年、査読無、

〔学会発表〕（計１件）

<u>及川　亘</u>、町の経済―上京芝大宮町の算用帳より―、中世都市・流通史懇話会、2007 年 8 月 29 日、若狭ふれあいセンター（福井県）

〔図書〕（計１件）

<u>及川　亘</u>（高橋慎一朗・千葉敏之他と共著）、東京大学出版会、中世の都市―史料の魅力、日本とヨーロッパ―、2009 年、183－214、

〔その他〕

なし